

## ■天田愚庵(五郎)

あまだぐあん

開国開港・・・1854＝

「東海遊侠伝」を著し、清水次郎長の名を不朽にした。

磐城平藩士甘田平太夫の五男に生まれる。母は同藩医の娘。幼名久五郎。

桜田門外変・1860＝6歳：

8月18日政変 1863＝9歳：

兄弟は多かったが、何れも夭折、長兄と妹1人のみ残るなか、

明治維新・・・1868＝14歳：<戊辰戦争>で、父に従い奥州列藩同盟の一員として参戦、両親らと生き別れとなり、帰藩して謹慎、  
戊辰戦争終・・・1869＝15歳：赦されて、藩校佐賢堂に入り、

学問のすすめ1872＝18歳：級友伊藤祐之と上京して、新設されたニコライ神学校に入学、

明治6年政変 1873＝19歳：縁あって小池詳敬の食客となり、その紹介で、山岡鉄舟に参禅して知己を得る。落合直亮に国学を学ぶ。

佐賀の乱・・・1874＝20歳：小池に伴われて西国歴訪中、佐賀の乱に遭遇、一味と誤認されて入牢。獄中で丸山作楽と出会い師事。

自由民権運動などに身を投じるうち、\*鉄舟の関係で、清水次郎長と知り合い、

三つの内乱・1876＝22歳：鉄舟の命を受け、次郎長の子分とともに、西郷隆盛の動静を探りに鹿児島へ行き、桐野利秋と面談。

西南戦争・・・1877＝23歳：西南の役後、陸羯南らと親交、恩人小池が死去、北陸方面に両親らを探索しながら帰京。

大久保暗殺・1878＝25歳：軽拳妄動の故、鉄舟の勧めで、次郎長に預けられるが、

琉球処分・・・1879＝26歳：両親ら探索すべく旅回りの写真師になろうと、江崎礼二に入門し、小田原で写真店を開業。

明治14年政変1881＝27歳：\*懇請され、次郎長と養子縁組して山本姓を名乗り、次郎長の富士山麓開墾を手伝う。

各地を放浪するうち、正岡子規にも影響を与えるような歌人に変身、大阪で新聞記者となる。

秩父事件・・・1884＝30歳：この年、\*次郎長が賭博で逮捕されると、養子を辞して天田姓に復すとともに、鉄舟の世話で有栖川宮家に  
奉職する一方、鉄舟に依頼されて次郎長を称える講談を一気に書き上げ、

内閣発足・・・1885＝31歳：\*「東海遊侠伝」として刊行、獄中の次郎長が喜んだのは勿論、全国的ヒットとなる。

帝国大学始・・・1886＝32歳：同家を辞し、大阪内外新報社に入る一方、鉄舟の紹介で林丘寺の滴水禅師に参禅し、

国民之友始・・・1887＝33歳：得度して禅僧となり、鉄眼と称した。

初の対等条約1888＝34歳：大恩人山岡鉄舟が死去、追善大法会を京都相国寺で開く。

帝国憲法発布1889＝35歳：破格の懸賞金を付けた肉親探しの広告を新聞紙上に出す。

帝国議会始・・・1890＝36歳：

大本教・・・1892＝38歳：京都清水産寧坂に草庵完成し移居、この庵を愚庵と名づけ、自らも称する。

郡司千島探検1893＝39歳：戊辰戦争犠牲者を弔う西国巡礼の旅に出、

日清戦争始・・・1894＝40歳：「巡礼日記」を出版。

白馬会・・・1896＝42歳：正岡子規を病床に見舞い、

Bushidou・・・1899＝45歳：

ビア/国産化・1900＝46歳：明治天皇御陵地選定のため入洛した品川弥二郎と伏見桃山で観梅、その地に庵を建て、

やがて、病臥するようになり、

日露戦争始・1904＝50歳：僧に読経させながら\_没した。